



# 浜田和幸の 永田町便り

第34号

2014年2月発行 編集・発行 浜田和幸事務所 URL <http://www.hamadakazuyuki.com> BLOG <http://ameblo.jp/hamada-kazuyuki>  
東京事務所 〒100-8962 東京都千代田区永田町 2-1-1 参議院議員会館 719 号室 Tel 03-6550-0719 / Fax 03-6551-0719  
鳥取事務所 〒682-0023 鳥取県倉吉市山根 583-3 サンヴェルツェ I 2F Tel 0858-24-5018 / Fax 0858-24-5038

## 通常国会がスタート

1月26日、通常国会が開会しました。これに先立って、次世代の党は総選挙の結果を受けた新体制の執行部を発足。来る4月統一地方選での捲土重来を期し、浜田議員は選挙対策委員長として陣頭指揮を執ることになりました。1月30日には第一次公認・推薦発表を行い、北は北海道議選から南は福岡市議選まで公認37名、推薦10名の計47名の候補を発表しました。

今国会で浜田議員は、外交防衛委員会、国家基本政策委員会、国際経済・外交に関する調査会の3委員会・調査会に所属。とりわけ外交防衛委員会は、今国会の最大の焦点となる、集団

的自衛権行使や自衛隊の海外派遣拡大を可能とする安全保障法制の整備を取り扱う重要な委員会と言えます。日米防衛協力指針(ガイドライン)の再改定作業や自衛隊任務拡充の是非も論戦

のテーマとなりそうです。

フランスの報道機関襲撃事件やイスラム国による人質事件を受け、同委員会ではテロ対策にも言及した審議が予想されます。

### 2月23日にウクライナ大使招きセミナー

中東の内戦と同様に国際問題となっているウクライナ問題の現状や政府の対応について、浜田議員は駐日ウクライ

ナ大使のイーホル・ハルチェンコ閣下を招き、2月23日(月)午後3時から参議院議員会館講堂にて、第4回国際政

治経済セミナーを行います。司会は神戸学院大学の岡部芳彦准教授(日本ウクライナ地域経済・文化フォーラム共同代表)、来賓の挨拶として次世代の党の平沼赳夫党首が登壇します。

### なぜか政権与党がスルーした「尖閣諸島開拓の日」記念式典

(1月16日のブログ)

「尖閣諸島開拓の日」を祝う式典に参加するため、沖縄県石垣市を訪ねました。式典は今回で5回目を迎えましたが、小生にとっては3度目の石垣訪問。珍しく大雨。とはいえ、地元の特産サトウキビには欠かさない天の恵み。

尖閣諸島を開拓した古賀辰四郎氏を顕彰する記念碑前(=写真)で開催された「条例制定を祝う宴」の時間になると、しばし雨脚が緩くなり、屋外の式典が滞りなく進行しました。この日のために尖閣諸島周辺で水揚げされたマグロが参列者に振舞われ、一同、海の恵みに改めて感謝し、先人の開拓者



魂に思いを馳せた次第です。

実は、日本政府が尖閣諸島を領土に編入する閣議決定を行ったのが明治28年(1895年)1月14日のこと。その日を記念しての石垣市主催の式典も、この野外「宴」の後、市民会館で盛大に開催されました。小生、「次世代の党」を代表し、これら2つ

の催しで挨拶を。

尖閣の歴史は決して120年ではなく、明の使節船が琉球の役人の案内で尖閣諸島の釣魚嶼を通過した1534年に遡ることを強調しました。要は、480年もの日本統治の歴史があるのです。こうした歴史の真実を国際社会に情報発信すると同時に、海洋、海底資源を「海からの贈り物」として大切に守っていく姿勢を世界にアピールすることこそ日本外交の神髄である旨を訴えました。

残念ながら、政権与党の代表は誰も顔を出さず、祝電だけが読み上げられただけ。これでは日本政府の本気度が疑われかねません。



エルヒジャージ現大使夫妻<sup>④</sup>とオマル元大使<sup>⑤</sup>と共に

(1月10日のブログ)

1月8日、スーダンの独立を記念するナショナルデー・レセプションが都内で盛大に開かれました。イギリスとエジプトによる共同統治の下、長年わたり南北に分断されてきたスーダンですが、2005年には国際的にも懸念材料となっていた内戦は終結。その後、2011年には南スーダンが独立しました。とはいえ、アメリカ、イギリス、ノルウェーの支援の下、今月末に再開される予定の和平協議は難航しそうな雲行きです。

わが国は同国の安定化に向け、南スーダンとのバランスを取る形での人道支援やODAを通じた農業技術の移転に取り組んでいます。今回のナショナルデーを祝う会にはアフリカや中東アラブ諸国の代表をはじめ、日本の政府系金融機関やエネルギー関連企業の関係者が多数出席しました。

なかでも、農業分野においては、わが鳥取県が健闘しています。実は、鳥取大学農学部が乾燥地研究センターが中心となり、スーダン農業研究機構との間で人材育成を進めており、スーダンにおいては日本との協力の象徴的存在として高く評価されて

## スーダンの独立記念日を 鳥取大学と共に祝う

いるのです。未来の大地アフリカの発展のために農業の果たす役割は欠かせません。その意味で、スーダンに限らず、アフリカから留学生や研修生を積極的に受け入れ、将来の国造りの専門家を育てている鳥取

大学のような地方の特質を生かした国際協力に邁進している学術、研究拠点をもちと支援していく時代だと思えます。エルヒジャージ大使曰く「40年にわたる内戦が終わった時から支援してくれている日本の皆さん、特に鳥取大学の方々の気持ちにはいくら感謝しても足りません。日本とアフリカの関係がしっかりと根づくよう頑張ります」。



鳥取大学農学部の乾燥地研究センターにて